



## 3年学力調査（6月）の分析

6月9日（月）に市内3年生の「学力調査」がありました。校内では「実力テスト」として実施したテストです。先日、個人成績表を渡しました。この個人成績表には、個人の得点や校内平均だけでなく、各教科の領域別得点・学習のアドバイスなども載っています。デジタル答案もありますから、自分の間違えたところを確認したり学習し直すこともできます。フォローアップシートという個人に適した練習問題までついています。ぜひ、夏休みやこれからの学習に有効に活用して、実力をアップしてください。

今回は、2年の3学期に実施された「到達度調査」の結果と比較して、大庄中3年生の学力の現状と公立入試の見通しを考えてみます。

### 2月の到達度調査より少しだけ市内平均に近づく

右の[表1]は、6月の「学力調査」と2年生の時の2月に行った「中学校2年生到達度調査」の5教科の本校平均が、それぞれ市内平均の何%だったかを示した表です。

例えば、国語では、2月は市内平均の85.9%だったのが、6月には市内平均の91.2%に近づいたということになります。同じように、社会と数学と理科と5教科合計では、6月の方が2月より市内平均に少し近づいています。英語は少し市内平均との差が開いたことになります。

なぜ、こんなまわりくどい書き方をしているかと言いますと、今回の「学力調査」の市内平均は、市教委から、学校のランクづけなどにつながるという理由で公表してはいけないことになっているからです。2月の「到達度調査」は、市内平均点を公表してもかまわないという指示でしたので、25年度学校だよりの26号に市内平均と大庄中平均を比べて、その差を示しました。それが、[表2]です。しかし、今回は、

	大庄中	市内	差
国語	52.6	61.2	-8.6
社会	34.0	41.2	-7.2
数学	30.3	41.5	-11.2
理科	39.1	47.5	-8.4
英語	36.0	50.7	-14.7
5科計	192.0	242.1	-50.1

は、得点をお知らせできませんので、[表1]のような、%でお知らせをしました。

おおよその数字になりますが、5教科合計で、2月には市内平均と50点の差がありましたが、6月は、その差が40点を少し切るくらいになっています。

まだまだ、市内平均とは差がありますので、少し近づいたといっても喜んではいられません。せめて、本校平均が、市内平均と同じくらいのレベルになるよう、夏休み・2学期・3学期と努力してくれることを期待しています。

教科	中2	中3
	2月	6月
国語	85.9%	91.2%
社会	82.5%	91.4%
数学	73.0%	74.6%
理科	82.3%	85.7%
英語	71.0%	69.0%
5計	79.3%	83.5%

## 大庄中は上位層が少なく下位層が多い

得点分布	2月		6月	
	大庄中	市内	大庄中	市内
400点以上	0.0%	4.6%	0.7%	2.7%
300～399点	11.9%	26.1%	8.0%	19.5%
200～299点	32.8%	37.5%	31.4%	37.0%
100～199点	41.8%	26.0%	49.6%	34.7%
0～99点	13.4%	5.9%	10.2%	6.1%

左の[表3]は、今回の「学力調査」と2月の「到達度調査」で、5教科の合計得点を100点ごとのグループにして、その人数分布の%を大庄中と市内全体で比較したものです。大庄中は、網掛けと太字の囲み線で示している通り、2月も6月も5教科合計が400点以上（1教科の平均が80点以上）の人も、300点以上（平均70点以上）の人も、200点以上（平均40点以上）の人も市内平均より少なく、5教科合計で100点台（平均20点台）の人と100点未満（1教科平均が20点に満たない）の人が市内平均よりかなり多い、ということがわかります。

例えば、大庄中では6月の学力調査での5教科合計400点以上の人は0.7%、つまり1人です。市内で学校平均の高い学校は、400点以上の人が5%とか6%います。大庄中の在籍人数にあてはめると、7人とか8人です。中には400点以上が13人もいる学校がありました。

### 今のままなら大庄中の公立合格は50%

次に、今回の「学力調査」から、来年3月の公立高校入試の可能性を考えてみます。

昨年度の市内全体の全日制高校進学率は67.4%でした。市内全体で3463人の卒業生がいて、市内と市外を合わせて2335人が公立全日制高校に進学しました。これは、国立高校と高専と特別支援学校も含んでいます。

6月の「学力調査」の市内全体の受験者は3208人でした。その人数で来年3月の公立全日制合格予想人数を計算しますと、 $3208 \text{ (人)} \times 0.674 = 2162 \text{ (人)}$  という数字になります。

3年「学力調査」での市内全体の得点分布を見ていきますと、2162人は、5教科合計で180点くらいのところになります。「こんな低い点数で公立に行けるの?」と思います。他市からの受検生が増える来年度の入試では、もっとレベルが上がると覚悟しておくべきでしょう。しかし、この180点というかなり低い見通しで可能性を考えても、今年の大庄中3年生は、50%くらいの人しかこの点数に達していません。今のままだと、今年の大庄中の卒業生は、半分くらいしか公立全日制高校に合格しない、という驚きの結果になりました。

前回の学校だより第11号でお知らせしましたが、現時点では、大庄中3年生の85%くらいの方が「公立全日制高校」への進学を希望しています。しかし、この成績では、85%の公立合格はあり得ません。

今回の「学力調査」で、5教科合計200点以上の人は、大庄中では40%くらいしかいませんでしたが、市内全体では約60%の人が200点以上でした。しかし、このあたりの成績の人でも不合格はあります。

兵庫県教育委員会のホームページに、この春の公立入試の調査結果が載っています。全日制高校受検者の5教科合計の県平均は271点です。あのむつかしい問題で、「合格者」ではなく「受検者」の平均が271点です。来年からは、そのあたりの点数が求められると思います。公立高校合格を目指している人で、5教科合計が100点台の人やそれ以下の人、200点前後の人もレベルアップが欠かせないことを忘れずに、努力を続けてほしいと思います。

(文責:校長 福井 隆夫)